

主体的な学びに寄与する

学習意欲向上を目指した授業の工夫

189984
橋本 伊織
岡 博昭 教授

1. 背景

今期の学習指導要領改訂が目指す大きな方向性は、実社会で活用できるような「育成を目指す資質・能力」を確かに育てていくことにある。その実現のためのアプローチの一つが「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善である。深い学びとは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かうことである。（文部科学省 「新しい学習指導要領の考え方－中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ－」）

深い学びを実現するためには、まず主体的な学びに着目して学習意欲を向上することが大切であると考えた。そこで、本研究は生徒の学習意欲を向上させる授業を開発することを目的とした。

2. 授業計画

基本学校実習1、2の経験から授業を計画するにあたって次の2つのことが大切であると考えた。1つ目は短時間で説明を行い、授業にメリハリをつけることである。生徒は長い時間話を聞くことが苦手であるが、問題演習や実験を効果的に取り入れ、授業にメリハリを持たせることが集中力を継続させることができると考えた。

2つ目は、身近で生徒に興味を持たせるような授業の内容にすることである。発展課題実習1ではプレートの運動と地震について授業を行うことにした。生徒にとって身近な題材は防災だと考え、防災を授業に取り入れた。発展課題実習2では太陽放射と地球放射と地球のエネルギー収支について授業を行った。生徒の身近な題材で考えたとき防災よりも気候変動などの環境教育の方が適切であると考えた。そこで、環境教育をするにあたってESDの視点を取り入れることにした。

ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と

訳される。ESDにより、環境問題をより身近なものに感じ、他人事ではなく生徒自身の課題であると意識することで、生徒個人の内面にはたらきかけ、課題意識を持たせ自己の目標を明らかにさせることができ、生徒の主体的な学びにつながっていくのではないかと考えた。

3. 結果

発展課題実習 1 と発展課題実習 2 は授業の事前と事後にアンケートを行った。その結果を図 I と図 II に示す。図 I は内発的動機づけについての質問であり、グラフは上が事前アンケートで、下が事後アンケートである。また、それぞれの項目について t 検定を行った。

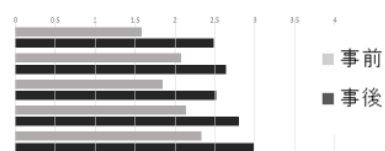


図 I 発展課題実習 1 の結果

図 I を見るとそれぞれの項目で事後のほうが良い結果になっており、t 検定の結果もそれぞれについて有意に差が認められた。

しかし図 II をみると事前と事後にほぼ差がないように見える。さらに、t 検定を行った結果も事前と事後に有意な差は認められなかった。

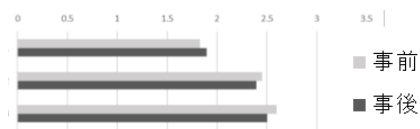


図 II 発展課題実習 2 の結果

4. 考察

発展課題実習 1 で行った地震と防災を考えた際は、直感的に理解できて身近で衝撃的な動画コンテンツや実験を取り入れながらメリハリをつけて授業をおこなった。一方で、地球温暖化では大部分の生徒には直感的にイメージしづらく、生徒にとっての重要度も低かったことが学習意欲の向上につながらなかったと考えられる。

今後の課題として、複数の原因やその影響が複雑に関連するような現象や学習事項の要点をまとめて短時間で簡潔に説明することが求められる。そのために、実験や動画コンテンツを用いて直感的に理解させることが必要であると考えられる。